

令和5年度勝瑞学講座

～近世以降の勝瑞～

勝瑞城館は、天正10（1582）年に長宗我部氏の侵攻を受けて、その機能を失いました。その後、阿波に入部した蜂須賀氏が徳島に城を構えたことで、勝瑞は阿波の中心地から外れていきます。

今回の講座では、勝瑞城館廃絶後の勝瑞の町の変化や、後世の人々が持っていた勝瑞のイメージ、江戸時代の勝瑞での生活を、絵図や文献、考古資料から考えます。

【第1回】1月14日（日）午前10時～11時30分

「（仮）近世の絵図に見る勝瑞」

〔講師〕平井 松午 氏（徳島大学名誉教授）

江戸時代になると「国絵図」や「村絵図」が作られるようになります。これらの絵図を読み解くことで、街道の変遷や町の景観が見えてきます。講座では、絵図を通して分かる勝瑞の地理的状況についてお話いただきます。

【第2回】2月25日（日）午前10時～11時30分

「考古資料などから見る近世の勝瑞」

〔講師〕重見 高博

（藍住町教育委員会社会教育課主幹）

勝瑞城館跡や周辺地域から出土した遺物や、石造物の分布、文献資料などから見えてくる近世の勝瑞の様子についてお話します。

【第3回】~~8月16日（土）午前10時～11時30分~~

「（仮）文献から読み解く『勝瑞像』」

〔講師〕石井 伸夫 氏

（徳島県立鳥羽龍蔵記念博物館主席）

近年の発掘調査で明らかになりつつある勝瑞の様子ですが、近世や近現代の人々は勝瑞にどんなイメージを持っていたのでしょうか。後世の軍記物や地誌、郡村誌に記された「勝瑞像」と発掘調査で明らかになってきた「勝瑞像」との違いについてお話いただきます。

【第4回】3月30日（土）午前10時～11時30分

「古文書に見る江戸時代の勝瑞村」

〔講師〕須藤 茂樹 氏（四国大学文学部日本文学科教授）

小部 さくら 氏（四国大学大学院文学研究科修士課程）

勝瑞城館廃絶後、勝瑞は農村へと変わっていきます。近隣の村である住吉村の組頭庄屋だった山田家の文書や、竹瀬村庄屋であった木内家の文書から読み解ける、江戸時代の勝瑞村での暮らしぶりについて、お話いただきます。

開催場所 ・ 藍住町総合文化ホール 交流室2

・ Web 開催（YouTube Live でライブ配信します）

受講料 無料 ※申込みが必要です。

定員 対面受講 30人（申込順）※Web受講は定員なし

申込み 氏名、電話番号、住所を明記の上、メール又はファクシミリでお申込みください。

藍住町教育委員会社会教育課

電子メール：syakaikyoku@aizumi.i-tokushima.jp

ファクシミリ：088-637-3153

問合せ 藍住町教育委員会社会教育課 電話：088-637-3128

※対面での受講者には受講証をお送りします。

※Web受講者にはライブ配信のURLをお送りします。